

レタス調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項目		必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積)*
試験区(1区当り)		4畝×12株=48株(4畝×7株=28株)	9.6㎡(5.6㎡)
調査対象(1区当り)	生育調査等	20株(10株)	4.0㎡(2.0㎡)
	収量調査等	20株(10株)	

*: 栽植密度を畝幅60cm×株間33cm、a当たり505株としたときの面積

2 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁調査	
発芽	期	播種粒数の40~50%が発芽した日	C	観察	月日	1	
	良否	発芽の揃い、発芽勢の程度を観察 [良]5~[不良]1	B	観察	指数	1	
定植時の苗質	葉数	葉長2.5cm以上の葉	A	測定	枚	1	
	葉長	最大葉	A	測定	cm	0.1	
結球	始期	10%の株で球の形成が認められた日	C	観察	月日	1	
	期	40~50%の株で結球始が認められた日	A	観察	月日	1	
収穫	始期	10%の株が収穫可能な日	C	観察	月日	1	
	期	40~50%の株が収穫可能な日	A	観察	月日	1	
	終期	収穫を終えた日、または収穫打ち切り日	C	観察	月日	1	
	日数	収穫始期から終期までの日数	C	観察	月日	1	
生育日数		播種期から収穫期までの日数	B	算出	日	1	
生育 (結球期、収穫期)	葉数	外葉の生葉数	B	測定	cm	1	
	葉長	外葉の最大葉	B	測定	cm	1	
	葉幅	外葉の最大葉	B	測定	cm	1	
	総重	株全体の重さ	B	測定	g	10	
障害の 発生 程度	病害虫	軟腐病、 すそ枯れ病 など	障害の種類別に破生株率で 0: 無 発生が認められない 1: 微 10%未満の株に発生 2: 少 10~20%未満の株に発生 3: 多 20~40%未満の株に発生 4: 甚 40%以上の株に発生	A	観察	指数	1
	生理障害	縁腐れ など					
	抽台	または株ごとの発生状態で 0: 無 発生が認められない 1: 微 発生がわずかに認められる 2: 少 発生が容易に見られる 3: 多 発生が目立つ 4: 甚 発生が著しい	A	観察	指数	1	

3 収量調査(aあたり)

項目			調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
障害株数			収穫不能な病虫害および障害株数	B	測定	株	1
収穫株数	規格内	2L	出荷基準による 600g~700g未満	C	測定	個	1
		L	550g~600g未満	C	測定	個	1
		M	450g~550g未満	C	測定	個	1
		計		B	算出	個	1
	規格外		軽微な障害株を含む	B	測定	個	1
	障害		病虫害、異常球	B	測定	個	1
	合計			B	算出	個	1
規格別収量	規格内	2L~M	出荷基準による 同上	B	測定	kg	10g
		計		A	算出	kg	10g
	規格外		軽微な障害株を含む	A	測定	kg	10g
	合計			A	算出	kg	10g
障害株、 異常球 および 規格外球数 割合	病虫害		$(\text{個数(株数)} / \text{栽植株数}) \times 100$	A	算出	%	1
	生理障害			A	算出	%	1
	異常球			A	算出	%	1
	中肋部突出、タケノコ球など			B	算出	%	1
	規格外			A	算出	%	1
欠株率			$((\text{栽植株数} - (\text{障害株数} + \text{収穫株数})) / \text{栽植株数}) \times 100$	A	算出	%	1

4 特性調査

項目			調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
平均1球重			規格内球重 $\times 100 /$ 規格内株数	A	算出	g	10
球高			調整した球の縦方向の直径	B	測定	cm	0.5
長球径			調整した球の横方向の最大直径	B	測定	cm	0.5
短球径			調整した球の横方向の最小直径	B	測定	cm	0.5
結球重			調整した球	B	測定	g	1
球形指数			$\text{球高} \times 2 / (\text{長球形} + \text{短球形})$	B	算出		0.01
緊度			$\text{結球重} / (1 / 6 \times \pi \times (\text{球高} \times \text{長球径} \times \text{短球径}))$	B	算出		0.01
芯高			調整した球	C	測定	cm	0.1
芯径			調整した球	C	測定	cm	0.1

